

平成30年度第1回倉敷市スポーツ推進審議会 議事録

日時 平成30年6月1日（金）14時00分～15時40分

会場 倉敷市庁舎3階 議会第2会議室

出席者 審議会委員：松井会長・向井副会長・珍行委員・難波委員・松原委員・宮川委員・
守屋委員・矢田貝委員

事務局：原田局長・山本課長・岡課長主幹・千代延主幹・三宅主事・竹並主事

教育委員会：荻野主任

傍聴者 0名

1 開会

本審議会に初の出席となる委員2名（珍行委員，難波委員）を事務局から紹介。

2 委嘱状交付

役員改選に伴い，新委員9名（内7名は継続）に対し机上への配布をもって委嘱状を交付。委員，事務局ともに自己紹介を行った。

3 役員選任

協議の結果，以下のとおり決定。

会長：松井 守

副会長：向井 彰

松井新会長からあいさつ。

4 報告事項

報告第1号 倉敷市スポーツ振興基本計画の到達目標について

事務局から，基本計画の到達目標について資料を基に説明。

【事務局説明要旨】

倉敷市スポーツ振興基本計画では2つの到達目標を設定している。

「成人の週1回以上のスポーツ実施率 平成32年度50%」について、平成29年度は43.3%という結果となった。平成25年度のアンケートの際に注釈を追加したが、スポーツという言葉が多様化しており、どこまでをスポーツに含めるかということも、今後考えていかなければならない。また、数値を見てもわかるように、20代～50代の働く世代の実施率を向上させていく取り組みを検討する必要がある。

「国民体育大会における倉敷市関係選手団人数 平成32年度200人」について、平成29年度は72回会期前大会，本大会，73回冬季大会の合計で189人であった。

【出席者意見（抜粋）】

松井会長：スポーツの定義が多様化しているという説明があったが、日本スポーツ協会ではeスポーツもスポーツに取り入れるということを言っている。その辺り、倉敷市はどのように考えているのか。

事務局：(山本課長) 2020年のオリンピックでもeスポーツをスポーツととらえながら取り組むという話が国の方では出ているようだが、倉敷市はそこまで追いついてなく、潜在的にどのくらいの方が取り組まれているかの把握ができていない現状である。

松井会長：どこまでをスポーツに含むのかということでアンケートの数値は大きく変わる。後程出てくるとは思うが、国は70%近くの数値目標を設定している。倉敷市の定義をしっかりと定めるべきだと思う。

矢田貝委員：スポーツ栄養の観点では、例えば高齢の方が、速度は周りから見ればゆっくりでも、その人本人が健康のために実施しているのであれば、それは運動と評価している。

【事務局説明要旨】

倉敷市内のスポーツの推進を図る中で、倉敷市スポーツ振興事業団、倉敷市体育協会の2団体にそれぞれの立場で取り組んでいただいている。来年の4月1日を目指して2つの団体に統合していただき、2つの力を合わせて、1つの団体としてスポーツの振興をより大きく図っていただきたいと思っており、現在、統合に向けての話し合いを行っているところである。

【出席者意見抜粋】

守屋委員：統合後の名称は決まっているのか。

事務局：(山本課長)先月までで2回の協議を行っているが、まだ名称は決まっていない。決まり次第お伝えさせていただきたい。

守屋委員：統合にむけての一番の問題点は何か。

事務局：(山本課長)体育協会は競技を中心としており、それぞれの競技をどのように発展させていくかを考えられている。スポーツ振興事業団は現在一番大きい事業として倉敷市のスポーツ施設等の指定管理を担っていただいている。それぞれ違う分野で活動している2つの団体を上手く融合していくということが、イメージとしては伝わり辛い部分もある。一番の問題としては、短い時間の中でそういった融合を果たしていくことだと思う。

守屋委員：従来のスポーツ振興事業団の役割と倉敷市体育協会の役割を尊重し、統合はするけれども役割分担は組織の中でそれぞれ継続するというイメージで良いか。

事務局：(原田局長)体育協会の事業、スポーツ振興事業団の事業そのものは変わらない。ただ、組織を一本化するのが目標。倉敷市のスポーツ振興を市民の立場から見た際に、窓口・施設の管理を一本化するのが一つの大きな狙い。東京オリンピック・パラリンピックを目前にしてスポーツ熱が上がってきており、今までは競技スポーツを応援するという立場が多かったが、生涯スポーツの面においても色々な立場の方にスポーツに取り組んでいただきたいということでの、窓口の一本化を目指している。

宮川委員：統合に向けて倉敷市、スポーツ振興事業団、体育協会の3者で話し合いがなされていると思うが、外部の方がその話し合いに入る機会が多少でもあれば良いのではないかと思う。この審議会がそうなのかもしれないが。

事務局：(原田局長) 統合に向けての話し合いの中では機会がないが、それを補完するために審議会をもたしていただいている。ご意見があれば言っていただければ。今は組織作りの段階であり、施策については統合された組織の中で反映していきたい。

5 議事

議案第1号 倉敷市体育章内規の改正について

資料を基に事務局から説明。改正案のとおり、承認をいただいた。

議案第2号 倉敷市スポーツ振興基本計画（平成30年度事業）の取り組みについて

資料を基に事務局から説明。承認をいただいた。

議案第3号 次期倉敷市スポーツ振興基本計画の策定について

【事務局説明要旨】

倉敷市スポーツ振興基本計画の期間（平成23年度から32年度の10年間）が終了することに伴い、平成33年度からの新たな計画を検討していく必要がある。

スケジュールについては、市民アンケート、パブリックコメント募集の時期に基づき設定している。

数値目標について、国が定めるスポーツ基本法、県が定める岡山県スポーツ推進計画ともに、10か年計画の後期見直しの際に目標数を増やしている。スポーツ基本法は8個から20個、岡山県スポーツ推進計画は8個から17個になっており、倉敷市としても数値目標を増やしていく必要があると考える。現在の数値目標は、報告第1号で到達目標として報告した2つであり、資料には33事業の補助目標として設定しているものの中から国や県の計画を参考にし、15の数値目標を記載している。

スポーツ基本計画では「成人の週1回以上のスポーツ実施率 65%(平成33年度)」の目標を掲げているが、報告第1号でも説明したように、スポーツの定義が広がっており、どこまでをスポーツに含めるかということを検討していく必要がある。

【出席者意見（抜粋）】

松井会長：数値を掲げることは、目標となり良いこと。本市における障がい者スポーツに対する取り組みは今一步のように認識しているが、今、障がい者スポーツの各カテゴリーはすごく活発である。これを行政には支援していただき、倉敷市は他市に先行して行っていただきたい。本日はせっかく珍行委員に出席をいただいているため、ご意見をいただきたい。

珍行委員：数値目標にあげられている「障がい者スポーツ・レクリエーション教室」は、現在私が属している障がい者スポーツ推進協議会の、デイサービスセンターの事業である。倉敷市ではプラザの体育館を使用し、一般の方も含めて、障がい者スポーツを知ってもらおうと、各種目年1回、体験会という形で行っている。アーチェリー、車椅子バスケット、ツインバスケット、車椅子テニス、車椅子グラウンドゴルフ、電動車椅子サッカー、スポーツ吹矢の7種目。教室を開くと、障がい者と一般の学生、難波委員のおられる倉敷中央高校の生徒も参加していただき、少しずつ普及はされている。しかし、基本的に場所が確保されていない。デイサービスセンターに問い合わせがあった場合にも、練習日に参加してくださいといった案内しかできない。少し興味があるから行ってみようかなという場所がないため、なかなか普及できない。

松井委員：指導者の問題はるか。

珍行委員：中央では進んでいるが、地方においては、何らかの形で経験したことがある人が指導しているのが現実。公的な場でスポーツ指導がなされるということはできていない。県が行っている障がい者スポーツ指導員講習等で資格をとられている方はいるが、現実には、個々の競技において指導されているという場面はまだできていない。

松井会長：環境はないのか。

珍行委員：競技によってはそれなりに確保できている。しかし、車椅子バスケットでは、使用できる体育館が限られている。倉敷の場合、問題なく使えるのはプラザの体育館のみ。他の競技においても、練習場所の確保には苦慮している。私に関わっているアーチェリーにおいても、色々な制約もあるため、場所は限られる。気軽に練習できる場所はないに等しい。プラザの体育館を月に2回使っているのが現実。

守屋委員：アーチェリーに関しては危険性も伴うため制約があるかもしれないが、学校の体育館の使用はどうか。学校開放はどのくらい利用されているのか。

事務局：(竹並主事)資料1の4ページを参考にしてほしい。運動場、武道場も含まれるが、平成29年度は市内90校で1,086,658人,52,039回の利用実績がある。

松井会長：各小学校区で学校開放運営委員会があると思うが、後発で来る団体は利用できる余地が無い。私もある小学校区のPTA会長をしていたので委員として参加したことがあるが、分捕り合戦のようなもの。次期の計画の数値目標を入れるのであれば、そういったことも付随して整備していく必要性を感じる。先程珍行委員が言われたように、県の指導資格を有している人も、仕事もあり時間的に参加できていない。それを行政が整備するのは不可能なことだが、やはり競技をする以上、指導者は必須であり、指導者数も並行して目標に掲げることは必須である。

宮川委員：支えるスポーツについて、国にも県にもないが、倉敷市は数値目標を設定している。平成29年度の実績がかなり下がっているのはトライアスロンが中止になったことが原因だと思う。つまり、スポーツボランティアの参加者数という数値目標を数回の事業のみで設定している。いかに多くのイベントに多くの人数がスポーツボランティアとして参加したのかということが、スポーツを盛り上げるうえで重要であり、ただ人数を目標とするのではなく、件数等も取り入れた方が良いのではないかと。

スポーツの指導者は基本的にはボランティアが多い。支えるスポーツの枠内にお

いて、競技をサポートする立場の人だけでなく、指導する立場の人がどれくらいいるのか、どれくらいまで増やしていくのかということ、このタイミングで明確にしておくと思う。

松井委員：倉敷市の基本計画には「する」「みる」「支える」という、素晴らしい3本柱がある。ボランティアの皆様が評価されるような大会ができれば。他の大会から、倉敷のボランティアに来てほしいと思われるようなボランティアの養成ができれば。ボランティアの養成ということは、今後必須になってくる。また、倉敷の大会にボランティアとして参加してみたいと思われるような、ボランティアの付加価値の高い大会になれば、大会の知名度も上がってくる。宮川委員の言われるように、数値目標に支えるスポーツをあげるのであれば、もっといろんな角度から見つめなおした方が良いと思う。

学校体育の分野で、学校部活動で悩まれることも多いと思うが、難波委員、どのような状況か。

難波委員：スポーツ庁が運動部活動に対する縛りに関して、県が8月に指針を出すということで、現場は待ちの状態。高校では色々なアンケートがはじまり、集約に向かっている。かなりの制約が予想され、競技力の低下ということも考えられる。社会体育というキーワードが出てきているが、日本文化の中にはまだ受け入れられていないため、保護者の方の意識改革もかなり必要になり、先行きは不透明。学校スポーツの中で養われているのに、その基盤を取ってしまうということになれば、オリンピックに逆風になるのでは。

松井会長：働き方改革の一環で学校部活動の在り方に対するガイドラインを国が作成し、各都道府県が指針を提示するという流れの中で、公立・私立の問題もあれば、種目によっての問題もあり、悩ましいところであるが、競技力の低下は防いでほしい。ガイドラインを見れば、地域においてもスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブの指導者が学校部活動の手伝いをするようなこともあるが、悩ましいところ。日本のスポーツの屋台骨を支えてきたのは学校スポーツであるため、ヨーロッパ

のような地域におけるクラブとは全く違うもの。安易に短時間で学校部活動を変えていくのは、ことを急いでいるのではないかと思う。

難波委員：働き方改革と結びつけて強引に持ってきている感じは否めない。個人的には、やりすぎを防ぐための指針だと、後ろのラインを決める考え方の方が良いのかなと思っている。

松原委員：成人のスポーツ実施率の目標は引き続き入っているが、20～50代の働く世代の実施率が低いことが、結果として全体の実施率を下げているため、次の計画においてはこの世代の実施率をいかに引き上げていくかという観点から、施策を見たらどうかと思う。また、国民体育大会における倉敷市関係選手団の人数の目標では、例えば、国体の出場者のみを指標として取り上げるのではなく、アジア大会や国際大会等様々な大会がある中で、スポーツ振興基金の交付者数、あるいは交付者の中での上位入賞者数といった具体的な数値がわかりやすいのではないか。国体の選手団となると、団体競技の出場有無により年度によって人数が変わってくるため、安定して数値を図れる目標を設定した方が現実的だと思う。

難波委員：障がい者スポーツに対するボランティアの関心が高まっているのではないかと思う。東京都はオリパラ教育というものを各学校で行っている。倉敷中央高校でも昨年度からオリパラ教育を考えてみようということで、健康スポーツ科において、障がい者スポーツを「知る」「体験する」「貢献する」という3つのキーワードを設定し取り組んでいる。高校生を対象としてボランティアを募ると、意外に人が集まるのではないかと思う。

松井会長：今の意見を、目標の「情報」の部分に反映していただきたい。

6 その他 倉敷市のスポーツに関する取り組みについて

資料を基に事務局から説明。

【出席者意見（抜粋）】

珍行委員：福田公園のテニスコートの改修工事、グラウンドゴルフ場の整備に関して、障が

い者への配慮はなされているのか。

山本課長：福田公園の改修について、今年度は解体工事を先行して行い、複数年での施工、完成を目指している。テニスコート本部棟の改修は予定していないが、テニスコートに関しては障がい者の方もスムーズに利用できるような形は考えていきたいと思う。テニスコート全面を改修できるわけではなく、一部分を増設するといった形での改修を考えている。

グラウンドゴルフ場について、全面天然芝のグラウンドゴルフ場を整備する予定であり、芝生であるため、車椅子の方、障がい者の方に配慮した芝生面を用意するのはなかなか難しいが、本部棟や駐車場、トイレを含めた設備に関して障がい者に対応した施設を予定している。

松井会長：今後、施設に関しては進捗状況をその都度、審議会にてご報告いただきたい。

倉敷市の基本計画には障がい者スポーツの普及・促進という項目がある。以前も申したかもしれないが、所管部署の職員に常時来ていただかなければ、対応も難しいかと思う。可能であれば出席していただきたい。

7 閉会

閉会あいさつ 倉敷市スポーツ推進審議会 副会長 向井 彰